

だい
第1
ステップ



こうせいを まな 学ぶ



おうちの方へ

文法を学び、発想力を身につけることが作文の基本ですが、もう一つ大事なことがあります。それは構成力です。どんなにおもしろいことを思いついても、構成力がなければ、それをほかの人には理解できるような形で表現できません。

昔から「起承転結」などの構成が伝えられていますが、そのような構成を体で覚える必要があります。それによって、作文を書くときにも、入試などで小論文を書くときにも役に立つ構成力が身につきます。

私たちは、「ホップ・ステップ・ジャンプ・着地」（左のコラム参照）という構成の形式を提唱しています。そうした構成がここで知らず知らずのうちに身につくように工夫しています。

なかには、「構成の形式を教えると、せっかくの子どもの個性を奪ってしまう。」という方がいます。しかし、構成ができないと、どんなにおもしろいことを考えていても、それを伝えることができないのです。このような考えに沿って、ここでは構成力を身につけていきます。

作文の構成は 「ホップ・ステップ・ ジャンプ・着地」

「形式を気にすると、個性がなくなってしまう。」と言う人がいます。

戦後、日本の学校では、そのような考えに基づいて、作文の書き方も感想文の書き方もきちんと教えられませんでした。「自由に書けばいいんだよ。」「自分のことばで、書きたいことを書けばいいんだよ。」、そのように教えられてきました。

しかし、自由に書けと言われても書けないものです。むしろ私は、「自由に書け」という作文教育のために、日本人は作文を書けなくなってしまったと考えています。

なぜ、バッハやモーツアルトはあのような奇跡のような名曲をた

くさん書けたのでしょうか。それは、形式があつたからです。舞曲の形式、ソナタ形式などに基づいて書いたからこそ、その中に豊かな個性を織り込むことができたのです。形式があつたからこそ、個性的でいられたのです。もし形式がなければ、毎回どのように書こうかと悩み、せっかくの個性をみんなにわかるような形で発表できなかつたのではないでしょうか。

基本に忠実に!

マンガもドラマも「ホップ・ステップ・ジャンプ・着地」

作文にも同じことが言えます。少なくとも初めのうちは形式に当てはめて書く練習をして、上手になつてから自分なりの工夫をするというのが、最も効果的で確実な方法です。

昔は、作文は「起承転結」で書け、とよく言われました。それをみなさんにもわかるように説明すると、「ホップ・ステップ・ジャンプ・着地」ということになります。

たとえば、四コママンガもこの形式で書かれています。最初のコマがホップです。ここで事件が起こります。次のコマがステップです。ここで事件の続きを描かれます。次がジャンプです。ここで「飛躍」が起こり、様子が変わります。そして、最後が着地で、オチということになります。

ほとんどの四コママンガがこのような形式になつています。いえ、四コママンガだけではありません。テレビドラマもストーリーマンガも、同じような作りになっています。

たとえば、「ドラえもん」もそうです。ホップの部分で、のび太がジャイアンたちにいじめられて、それを助けるためにドラえもんが不思議な道具を出します。ステップの部分で、のび太がその道具をふつうに使います。そして、ジャンプの部分で、のび太がドラえもんの注意を無視して道具をでたらめに使つて混乱を起こします。この部分が『ドラえもん』のなかで一番おもしろいところです。そ

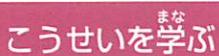
して、最後、着地の部分で解決されます。「ドラえもん」は多くの場合、このパターンで話が進みます。

おうちの方でも見ておられる方も多いかもしれません。サスペンスドラマも同じです。

ホップの部分で、殺人事件が起こります。ステップの部分で、犯人らしいと思われていた人が殺されたり、その人にアリバイがあつたりします。ジャンプの部分で、ますます謎が深まって、第二の殺人、第三の殺人などが起こります。そして、「着地」で、事件が解決して、よく海辺で犯人が自白したりします。

もちろん、違った作りのものもありますが、こうした「ホップ・ステップ・ジャンプ・着地」というのが基本であることは間違ひありません。

このような形式に慣れるのが、作文上達の近道です。そして、十分に使いこなせるようになつたら、自分独自の、違った形を工夫すればよいのです。



もんだい

順序よく書く力をつける問題

こた
答えは、べっさつ

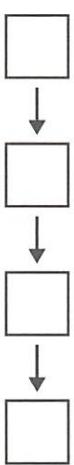
2
ページ

つぎの文を、時間のじゅんに気をつけて、
お話をつながるようにならべかえましょう。

1

- ① 友だちはどうぼうの顔を思い出して、絵をかきました。
- ② わたしには、絵のじょうずな友だちがいます。
- ③ にがお絵のおかげで、どうぼうはつかまりました。
- ④ あるとき、友だちはどうぼうを見かけました。

こた
答え



おうちの方へのアドバイス



構成の基本は、
話をする順序のことです

まずは、未整理な話を「ホップ・ステップ・ジャンプ・着地」の順に並べ替えることによって、自然に順序よく語る力を身につけてもらいます。

ここでは、まず手始めとして、時間の経過どおりに並べてもらいます。もっと複雑な構成については、後で学びます。

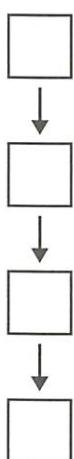


①それを見たわたしは、お母さんをおこしてあげました。
 ②ところが、その自てん車はよその人のもので、地めんに足がとどかなくて、
 ころんできました。

③わたしのお母さんは、いつもそそつかしいです。

④ある日、スープーの帰りに、お母さんは自てん車にのろうとしました。

答え



①わたしのお兄ちゃんは、いつもやさしいです。

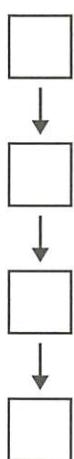
②お兄ちゃんはおこつて、しばらくわたしと口をききませんでした。

③わたしが、お兄ちゃんの40点のテストを見つけて、お母さんに言いつけた

ことがありました。

④でも、ときどきおこることもあります。

答え



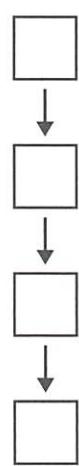
①お父さんは、ずっとふきげんでした。

②ある日、お父さんと甲子園球場に、阪神せんを見に行きました。

③でも、10たい〇で、阪神はまけました。

④わたしのお父さんは、阪神タイガースのファンです。

答え
こたえ

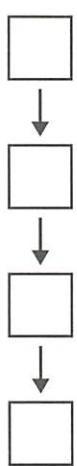


- ①おばあちゃんは、とても心ぱいしました。
- ②おもちゃ売り場で、わたしはまいごになりました。
- ③おばあちゃんと、買い物に行きました。
- ④だから、わたしを見つけた時、おばあちゃんはあん心したそうです。



①家ぞくみんなで、ドライブすることになりました。

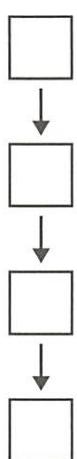
答え
こたえ



- ①家ぞくみんなで、ドライブすることになりました。
- ②おもちゃ売り場で、わたしはまいごになりました。
- ③おばあちゃんと、買い物に行きました。
- ④だから、わたしを見つけた時、おばあちゃんはあん心したそうです。

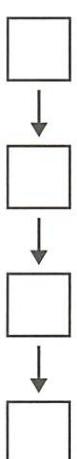
8

- ① そこには、とてもきれいなノートがありました。
- ② きのう、文**ばん**ぼうぐやさんへ行きました。
- ③ でも、お金**かね**をもつていくのをわすれて、買**か**えませんでした。
- ④ あきらめて、帰かえりました。答え

こた
答え

7

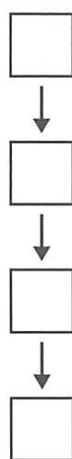
- ② しかし、なんと、車**くるま**がこしようしていたのです。
- ③ だから、しかたなく、みんなで家**いえ**にずっといました。
- ④ きのうは、日曜日にちようびでした。答え



①公園に、ねこがいました。

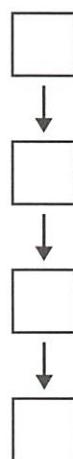
- ②すると、ねこが、わたしの手をひっかいたのです。
- ③わたしは、ねこがきらいになりました。
- ④かわいかつたので、つかまえようとしました。

答え



- ①夏休み、毎日、引き算のれんしゅうをしました。
- ②とくににが手だったのは、引き算です。
- ③わたしは、算数がきらいでした。
- ④それで、引き算がとくいになりました。

答え



つながりのある
話ができたかな?

